

プログラム名： 観光歴史ガイド養成プログラム				代表者:宮瀧 交二				
評価基準		点検・評価項目			自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい・いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項,「はい」の場合特に優れた事項,「いいえ」の場合の改善計画 他)	自己評価
1	プログラムの 目的・概要	1	当該プログラムは対象とする職業の種類および身につけることのできる能力を具体的かつ明確に定め、公表しているか	-1 課程の目的・概要は具体的に定められているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書 様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書		A :点検項目がすべて「はい」である
				-2 対象とする職業の種類は明確か	はい	職業実践力育成プログラム申請書 様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書		
				-3 身に着けることのできる能力は具体的かつ明確に定められているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書 様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書		
				-4 上記項目について公表されているか	はい	HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/		
2	教育課程	1	対象とする職業に応じ、前項の能力を身に付けるのに必要な実務に関する知識、技術および技能を習得させる教育課程となっているか	-1 科目内容及び時間数は対象とする職業に応じ、前項の能力を身に付けるのに必要な実務に関する知識、技術および技能を習得させる教育課程として適切か	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1,様式2,一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書		A :点検項目がすべて「はい」である
		2	対象とする職業に関する企業、団体等と連携して行う授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業その他の実践的な方法による授業が総授業時間数の5割以上を占めているか	-1 ①企業等と連携して行う授業 ②双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 ③実務家教員や実務家による授業 ④実地での体験活動を伴う授業	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1様式2	「実践的な方法による授業」が総授業時間数に占める割合を記述して下さい: 93%	
		3	「実践的な方法による授業」について、実施している割合や内容がわかるようシラバスに具体的に明記し、公表しているか	-1 「実践的な方法による授業」について、実施している割合や内容がわかるようシラバスに具体的に明記し、公表しているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式2 HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/		

プログラム名： 観光歴史ガイド養成プログラム

代表者: 宮瀧 交二

評価基準		点検・評価項目		自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい・いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項,「はい」の場合特に優れた事項,「いいえ」の場合の改善計画 他)	自己評価		
3	教育成果	1	修了要件は受講生に公表されているか	-1	修了要件・修了を認定する時期/修了時に付与される学位・資格等を明示して公表しているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票) HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/	A :点検項目がすべて「はい」である	
				-2	修了要件は明示して公表しているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書、 一般教育訓練実施状況調査票(個票) HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/		
		2	審査、試験その他の適切な方法により「身に付けることのできる能力」を習得できたかどうか評価を行っているか	-1	審査、試験その他の適切な方法により「身に付けることのできる能力」を習得できたかどうか評価を行っているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票)		「身に付けることのできる能力」を習得できたかどうか評価する方法を記述して下さい: 本プログラム全60時間の授業について4/5以上の出席、資格認定試験課題に合格
		3	修了者の状況による効果検証の方法および公表方法は定められているか	-1	効果検証の方法は定められているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1 明示書(修了者の状況データ)		
				-2	効果検証方法は公表されているか	はい	明示書による公表 HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/		
		4	3の効果検証により、プログラムの目的に照らして適切な教育成果を挙げられているか	-1	効果検証の結果、適切な教育成果をあげられているか	はい	受講後アンケート 明示書(修了者の状況データ)		各年度ごとの受講生は「同窓会」を組織し、年に2、3回自主的に東京都下等において史跡巡りを実施し、各自のスキルの研鑽の場としている。 また、研鑽の場に同行したプログラム担当教員が、各受講生より、それぞれが所属する自治体の史跡ガイド等の場において本プログラムの成果を踏まえて、より積極的な活動をしていると報告を受けている。

評価基準		点検・評価項目				自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい・いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項、「はい」の場合特に優れた事項、「いいえ」の場合の改善計画 他)	自己評価
4	内部質保証	1	教育課程の編成および自己点検・評価を行うにあたり企業等の意見を聞くための仕組みを整備しているか	-1	教育課程の編成において企業等の意見を聞くための仕組みを整備しているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1		A :点検項目がすべて「はい」である
				-2	自己点検・評価ににおいて企業等の意見を聞くための仕組みを整備しているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1		
		2	修了者の状況による効果検証結果を教育課程の見直しに活用しているか	-1	修了者の状況による効果検証結果を教育課程の見直しに活用しているか	はい	受講後アンケート 明示書(修了者の状況データ)		
		3	自己点検・評価結果をプログラム運営の見直しに活用しているか	-1	自己点検・評価結果をプログラム運営の見直しに活用しているか	はい	本自己点検・評価シート	毎年、年度末に受講者へのアンケート結果等を踏まえて本シートを記入することにより、当該年度の実施内容を回顧し、次年度のプログラムの運営に役立ててている。具体的には、第1期生は修了レポートの提出のみを受講修了の判定材料としていたが、第1期生の要望により第2期生以降は、実技、すなわち課題として設定した浮世絵を対象としたギャラリートークを実施するようになり、第3期については実践的な方法にするなどの見直しをおこなった。	
5	受講生支援	1	授業を行う時間・時期・場所等について社会人が受講しやすい工夫をおこなっているか	-1	授業を行う時間・時期・場所等について社会人が受講しやすい工夫をおこなっているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1	工夫の内容を記述して下さい: LMSを活用したe-ラーニング、土日祝日のみの通学で終了可能な開講スケジュール	A :点検項目がすべて「はい」である
		2	受講生に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法は明示されているか	-1	受講生に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法は定められているか。また、受講生への周知はなされているか。	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書	①受講生に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法を記述してください 習得度、理解度についてLMSを利用し確認を行い、習得度・理解度に問題がある場合は個別指導も検討する。また、受講生からの質問等に対応すべく窓口を設置し、学習補助を行う ②受講生への周知方法を記述してください 明示書	
		3	受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制は明示されているか (例:資格取得関連情報や資格関連職種の求人情報の提供方法、早期就職に向けた具体的な相談体制の整備状況)	-1	受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制は定められているか。また受講生への周知はなされているか	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書	①受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制を記述してください 資格取得については、繰り返し学べるようLMSに対面授業・現地実習の録画データを格納するなどのバックアップ体制をとる。就職については、観光ガイドを募集している自治体を紹介する ②受講生への周知方法を記述してください 明示書	

プログラム名： 観光歴史ガイド養成プログラム						代表者:宮瀧 交二			
評価基準		点検・評価項目			自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい・いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項,「はい」の場合特に優れた事項,「いいえ」の場合の改善計画 他)	自己評価	
6	受講生の受け入れ	1	受講生を受け入れるための要件は、当該プログラムが目標としている内容を効果的に実施するための見地から合理的に設けられたものか	-1	受講生を受け入れるための要件は、当該プログラムが目標としている内容を効果的に実施するための見地から合理的に設けられたものか	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書	①受講生となるための要件を記述してください 必須ではないが、地域の歴史に造詣が深く、調査・研究の経験があることが望ましい。 ・受講に最低限有しておくべき技能・知識の内容及び水準 学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有し、就労中または就労経験のある社会人 ②上記要件が設定された理由を記述してください すでに観光地化している神社仏閣や名所旧跡のみならず、国内外のあらゆる場所を「歴史研究の成果を観光を通じて社会に還元する歴史学(観光歴史学)」の観点から、広く調査・研究し、新たな観光地としての魅力を引き出すという社会的使命を持った「観光歴史ガイド」を養成するため	A :点検項目がすべて「はい」である
7	教員組織・運営	1	当該プログラムについて適切に指導することができる指導者を有しているか	-1	科目を担当する指導者に不足はないか	はい	職業実践力育成プログラム様式2 一般教育訓練実施状況調査票(個票)		A :点検項目がすべて「はい」である
		2	当該プログラムに係る販売活動・教育活動に関する苦情、不適正な販売活動等に関する情報を受けるための窓口が設けられているか	-1	当該プログラムに係る販売活動・教育活動に関する苦情、不適正な販売活動等に関する情報を受けるための窓口が設けられているか	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票) 明示書		
		3	2の窓口 to 寄せられた苦情等を受けた場合に事実関係等の調査改善を行うプロセスは定められているか	-1	2の窓口 to 寄せられた苦情等を受けた場合に事実関係等の調査改善を行うプロセスは定められているか	はい	-	苦情等を受けた場合に事実関係等の調査改善を行うプロセスを記述してください 地域連携センター事務室にて事実関係等の調査実施・リカレント教育運営委員会にて改善について検討する	

プログラム名： 観光歴史ガイド養成プログラム

代表者:宮瀧 交二

評価基準		点検・評価項目				自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい・いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項,「はい」の場合特に優れた事項、「いいえ」の場合の改善計画 他)	自己評価
8	施設設備	1	当該プログラムを実施するにあたり、十分な施設設備を備えているか	-1	当該プログラムを実施するにあたり、十分な施設設備を備えているか	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書		A :点検項目がすべて「はい」である
9	広報活動	1	当該プログラムの関連企業・機関に対して周知・募集の活動を実施しているか	-1	当該プログラムを関連企業・機関に周知・募集活動を行ったか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式4	①企業・機関等へ周知した方法を記述してください 大学HPへ公開 パンフレット資料の郵送 メールでの連絡 関連団体への訪問 ②企業・機関等へ周知した内容を記述してください プログラムの目的・概要 募集要項(定員・学費・カリキュラム)	A :点検項目がすべて「はい」である
				-2	企業・機関等へ周知したことによる効果はあったか	はい	別添「2024年度リカレント教育受講後アンケート」	関連企業・機関に勤務する職員が、本講座の受講生として応募してスキルアップを図っており、受講後の満足度も高い。	
		2	当該プログラムについての情報をまとめ、広く公開しているか	-1	当該プログラムについての情報をまとめ、広く公開しているか	はい	HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/		

協議会での連携企業からの意見等	連携企業名：	(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
-----------------	--------	-------------------

・修了時アンケートの結果から、受講生それぞれの学び直しについて、非常に高い満足度が得られていることは評価できる。一方で、インプットだけでなくいかにアウトプットし、社会に還元していく担い手としての立場、立ち位置について、今後、より挺入れしていくことができるのではないか。今後受講生と交流していく中で、受講生のニーズにいかに応え、受講生の皆さんからの社会へのアウトプットという形につなげていくのか考えたい。

自己点検・評価委員会による評価	A :各点検項目について基準を満たしている
-----------------	-----------------------

4回の現地実習を含む実践的な方法を中心(93%)に授業を展開している点は評価できる。
教育効果として、各年度ごとの受講生で「同窓会」を組織し、活動している点は、本プログラムを通じた学びが単なる専門的知識やスキルの習得にとどまらず、受講することの意義を深めていると評価する。
毎年度の受講者アンケートの結果を踏まえて、課題の設定や評価方法を工夫しているとのことで、今後も受講者のニーズを踏まえた授業内容の改善に期待する。
LMSの活用方法として、開講スケジュールを含めた社会人が受講しやすい工夫や、習得度や理解度の確認、授業コンテンツで繰り返しの学びを可能にするなど、受講生の満足度にもつながることと評価する。
今後も、連携企業(埼玉県埋蔵文化財調査事業団)との連携により、より多くの受講者の参加に結び付く情宣活動が展開されることを期待する。